

# ダブル赤ずきんとスローライフ♪

～昼は狩人、夜は一人の抱き枕～

2021/03

個人音楽サークル『カラオモト』

1. 雇われました

「あねえ。小屋のワビング。

懶かるは木々の疊や、小鳥のせんやうが聞いへる。

#主人公の前に契約書が差し出される。

《H◇日画/30cm》

H//コア 1 「それでさ、リリル、リリルを」

導かれるままにサインを書いていく。

H//コア 2 「おふ、リリル」

奥のヤシナンからクレシテが歩いてくる。

西手にはホシメロコア。熱やつ。

《ク◆右前/100cm から 右前/30cm へ動きながら》

クレシテ3 「あーかわいいわ……」

《ク◆右前/30cm》

クレシテ4 「せご、クレシテお嬢さん特製ホシメロコア マ  
ハナロ入らぬ もーん」

クレシテ、ロコアをトーブルに置く。

クレシテ5 「興が立つたて飲んでね~」

H//コア 6 「あっがと」

クレシト、主人公の隣に座る。

### 《ク◆右/30cm》

「(座る) ふーへ……ど、彼が例の?」

H〃コト 8 「うそ。村で一番の狩人や?」

クレシト 9 「ふーん♪」

「ばしサインを書く。

クレシト、興味津々に顔をじろじろ見る。

### 《ク◆右/10cm 頭を見回す感じで動く》

クレシト 10 「んー…………ん~ふふ~ なぬせじね……♪」

#主人公、思わずサインを書く手が止まる。

H〃コト 11 「近づけ~」

### 《ク◆右/30cm 左ル》

クレシト 12 「あー! むぐ! むぐ~ うー~ ふふ~」

H〃コト 13 「わ~」

クレシト 14 「やーでも助かるよな。最近この森で狼が丑たつこ  
ハジヤス。アタシは大丈夫でも、H〃コトが怖がつ  
ちゃハカハカ~」

H〃コト 15 「怖くないですか~」

クレシト 16 「心配してあげてやの~」

H〃コト 17 「心配なっていられない~」

クレシト 18 「ハ~」

H〃コト 19 「ハ~」

H〃コト、強がる。

(叫口もみ)

H〃コト 20

「トコトか呪い、狼など居はないから……極くない  
からね。でも、このかじないかだつたら、いない  
迷うがござに決まつたねじや。だから彼を雇つて、  
それで向とかして——」

クレヨン 21

「ハラハラ

H〃コト 22

「向い」

《ク◆扣/10cm》(六瓶)

クレヨン 23

「アタシの妹、向處こでしゅへ~」

H〃コト 24

「なひー。やひあひむ行ひトトー。」

《ク◆扣/30cm | 眼鏡》

クレヨン 25

「ハ一やだあ」

H〃コト 26

「じやあねな」と皿わなごド」

クレヨン 27

「せーこへ」

H〃コト 28

「おひだく……ああ、サイン書き終わつてはしたか。  
すみません」

H〃コト 29

「それでは契約のとおり、今日から私たちの護衛をお  
願いします。狼を見つめたら、処分してもらつて構い  
ません。こうですかな？」

クレヨン 30

「よし、契約成立だね！」

《ク◆右/10cm 拡せつへ》

クレシト 31

「君には期待してゐるやー。ハラハラー。」

H〃コト 32

「だから近づいてー。」

クレシト 33

「ふふ、じやんこ、じやんこ、 もうサインしちゃったんだ  
だしゃー。」

クレシト 34

「今田から想は、アタシ達専属の狩人だよ。」

《ク◆右/0cm 拡げへ》

(『ボヘ』せネイティブのせくねいと小声)

クレシト 35

「わい、アタシが……ボス」

H〃コト 36

「壁に挂でふふ、じやん」

(大きく息を吸いつ、わい一回)

クレシト 37

「……ボヘ」

H〃コト 38

「怖がつてゐるや。」

《ク◆右/10cm 戻る》

クレシト 39

「オウフ、そんなつもりじやなかつたんだけど……は  
い、アタシ達はフア〃コード! もフア〃リー。」これから  
同じ壁根の下で暮らす家族なんだから。」

クレシト、主人公の肩をほぐす。

クレシト 40

「ほ、ほ、肩の力抜いてー。お姉さん怖くない  
よー。アシトホールドよー。」

クレシト 41

「大丈夫? 今田から頑張れや。」

クレシト 42

「ふふ、じやあ頑張るわ、早くく」

H〃コト、二人を横田に睨ながら口吻を一口。

H〃コト 43

「ふー、ふー……ふー、ふー……はあ」

《ク◆右前/10cm、横から顔を覗く感じ》

クレシト 44 「ああ、アタシの！」とは軽に、クレシトって呼んで♪」

クレシト 45 「うそ、よひこへ♪」

《ク◆右/10cm》

クレシト 46 「で、彼女がHミリア♪ 超可愛いよね♪」

Hミリア 47 「ふふふ……えへ、可愛くない？」

クレシト 48 「うそへー、照れちやつてー」

Hミリア 49 「あーもー、お姉ちゃんの！」とせ無視して「だやい。……その、今日からよひこへお願ひしまや」

クレシト 50 「アタシからよひこへ♪ 嫁の！」とはHミリアに任せてるから、なんかあつたらい彼女に」

主人公、返事をする。

クレシト 51 「ふふ」

《ク◆右/30cm》

クレシト 52 「じゃ、アタシは仕事だから。後はお願いね」

Hミリア 53 「はーい」

クレシト、立ち上がりつて準備。

ナイフホルダーを取り、太ももに付ける。

《ク◆右前/50cm 『ナイフせーへ』 のふりふりで探

して戻りす》

クレシト 54 「メガネよー、ふせんよー……ナイフはーへ……

あひだつたつた……よー」

クレシテ 55 「こいつもねーあ～」

『H◇山廻/30cm クレシテのこゑ右奥を見ながら  
「」』

H〃コト 56 「狼には着いていかないでねー。」

『ク◆右前/50cm マイクと反対を向かながら』

クレシテ 57 「あ一撃必死ねー。」

クレシテ、窓から外へ。

「せーし體。一呼吸。

『H◇山廻/30cm マイクのほうを向く』

H〃コト 58 「ふー……」

田線が合図の一人。自然と微笑む。

H〃コト 59 「ふー。色々すみません。こつもあんな感じなんです。  
距離が近いとこうか……警戒しないといつか……」

H〃コト、口吻を手に取つてしまつ。

H〃コト 60 「……心配なのは私のほうですよ」

「ふー」と余よしきから口吻を一口。

H〃コト 61 「ふー、ふー……ふ、ふー……はあ」

H〃コト 62 「口口ア美味しさですよ。飲んでみてください」

#主人公も口吻を一口。

H〃コト 63 「ふー……んぐ、んぐ……まい」

H〃コト 64 「でも、本当に助かります。前から狩人は募集して  
たんですけど、誰も来てくれなくて」

僕が初めてなんですか……？

H〃リト 65 「はー、あなたが初めてです。いきなり来たんで、わいきなげ」シクリしました」

H〃リト 66 「玄関をノックされて、朝早くから誰だらうつて、慌てて開けたら……獵銃を背負った男が立ってるんですけどもん」

H〃リト 67 「正直、少しだけ怖かったです」

H〃リト 68 「ああいえ、謝りなさいでください。怖い人じやないつていいのは、すぐに分からましたから」

H〃リト 69 「むふふ…………ふふふ 一つだけ忠告しておきます。ね姉さんには嫌なことをされたら、ちゃんと嫌つて叫びてください。じやなごと、おーっと構つてしまふんだ」

H〃リト、口笛を一口。

H〃リト 70 「ふふふ。おーいよ…………ふく、ふく……はあ」

H〃リト 71 「皿を付けてくださいね~」

……せこい。

H〃リト 72 「ふふ。あまり嚴語もござませんね。契約も済みまし

たし、叫速、見回りのほうお願い出来ますか？」

H〃リト 73 「はー。改めて、今日からもうしくお願ひしますね。  
狩人さん」

(01-END)

(スコット 580枚目) (H〃リト 830枚目)

狩人、赤ずきんの家の前で護衛中。

外はすっかり夜。ちょっとぴり肌寒い。

家から赤ずきんの二人が差し入れを持ってくる。

《ク◆右前/50cm から 右前/30cm く動かながら》

クレシテ 74 「お疲れー♪」

《ク◆右前/30cm》

クレシテ 75 「せこ、 クレシテお姫様へ特製ホットミルク、 ハチミツ入り、 ビール♪」

《H△右前/30cm》

H△コト 76 「外寒いですね。毛布、持つべきでした。使ってください」

狩人、毛布にくるま。

クレシテ 77 「ねえねえ、アタシ達も入るつむ」

H△コト 78 「ええ、ダメだよ」

クレシテ 79 「ここの中、入り口いたほうが頃まうだしね。」

赤ずきんの一人、毛布に入る。

《ク◆右前/10cm》

クレシテ 80 「ん……せ、H△コトや！」いやれ！」

《H△右前/10cm》

H△コト 81 「ん……ええ……せ、せ、はあ」

クレシテ 82 「君は猟銃置いて……休憩だよ休憩♪」

毛布に入り、温かやう。

クレシテ 83 「ん……ん♪」

《H△左/0cm 小皿》

H△コア 84 「嫌なら嫌って叫びつけてやるね」

クレシテ 85 「なんか叫んだー?」

《H△左前/10cm》

H△コア 86 「なんこも」

クレシテ 87 「そい」

クレシテ 88 「まあせり、君もH△コアも、ホットミルク飲んで温めたり、わざ、口上がれ♪」

H△コアと獵人、ホットミルクを一口。

H△コア 89 「ふー、ふー……ん、んく……む」

クレシテ 90 「ん、美味しね。良かった♪」

クレシテ 91 「で、調子はどう? バンバンやつてる? 何匹か仕留めた感じ? ん、いいね♪」

H△コア 92 「夜遅くまであっがとう! やらこます。あなたのおかげで、私たちも安心して眠れるので」

クレシテ 93 「ほーんと、ありがとな♪」

クレシテ 94 「君が護衛に集中出来るように、アタシ達も「いつやつてサポートするか?」などがあったら、なんでも叫びつね?」

クレシテ 95 「ん、なんでも♪」

クレシテ 96 「おはにこでほしこうじてまつなり、あひとへりつこて  
てあがね」

### 《ク◆右/0cm 左/10cm》

クレシテ 97 「もひとこう」と、してあげてもこころへ。」

H〃コア 98 「ちょっとね猿かえ」

### 《ク◆右前/10cm》

クレシテ 99 「え?」

H〃コア 100 「あんまり、その……へいわせ興れるのは良くないと  
思ひよ。彼も窮屈がつだし」

クレシテ 101 「えー。やつこいつH〃コアだつて、きゅーつて抱き  
ついてねじやさ」

H〃コア 102 「きゅーじやないよ。ちょっと腕掴んでるだけ」

クレシテ 103 「怖いんだー♪」

H〃コア 104 「怖くないといへ。でも、いつ狼が出るか……」

クレシテ 105 「んーまだ村だつて明かりがついてるし、大丈夫で  
しょ。ね?」

H〃コア 106 「まあ」

クレシテ 107 「それよろせ、もひとと温めてあげよ。」

クレシテ 108 「ほひ、手がかじかんじやつて。アタシは右手を温  
めゆから、H〃コアは左手温めや。」

H〃コア 109 「分かった……じやあ、その……」

### 《H△左/0cm IJIから小声》

H〃コア 110 「手繋ぎましよつか」

《ク♦右/0cm リリカムシ版》

クレシテ 111 「右手せ、リーリー」

クレシテ 112 「えいへ。 太ももの悶へ 悶がいでしょへ」

#主人公の手が股に」ずれる。

クレシテ 113 「あ、ちょっと鼓動が早くなつたようだ。 ジッカセ

メヘ、 せあヘ、 あれ」「すれぬ、 そへ、 はあ、 はあヘ」

H〃コト 114 「んへ。 ちょっと鼓動が早くなつたような。 ジッカセ

れあしたへ。」

クレシテ 115 「温かくなつてゐる証拠へ 一人でもっと、 密着してあげよへ。」

H〃コト 116 「ん、じやあ、 腕を抱きしめ……はあ、 もつと温ぬ

ますね……ん、 そん……はあ」

(四〇ヶ。 ゆっくり温かく吐息を20秒)

クレシテ 117 「はあ……はあ…… (★20秒)」

H〃コト 118 「はあ……はあ…… (★20秒)」

クレシテ 119 「なんだか、 こやうになねへ」

クレシテ 120 「外から見たら、 三人で毛布にへりまつて、 温めあつてゐるにしが見えなこたわ……」

クレシテ 121 「毛布の中は、 一人のお嬢様とに左右から密着され

て……胸も太ももも押しこまれて……体が火照つて  
あわやつへ。」

クレシテ 122 「なるせむねへ。 毛布の中で何が起つても、 外に

は見えないわけだへ」

---

クレヨン 123	「ふうふうふ、 ここ」心照ひのやつたお♪」 《ク♦少し前を覗き込む》
クレヨン 124	「ねえH〃コト、 ぬまのと申置しね~。」
H〃コト 125	「え、 回~」
	クレヨン、 H〃コトと 繼に主人公の股間に触る。
	《ク♦右/0cm 限界》
H〃コト 126	「え、 そ~、 硬い」
クレヨン 127	「わいわわわ うなづく。 すう、 すういふ♪」 →esseやうやう。
クレヨン 128	「せあ……ふふ……せあ、 せあ♪」
H〃コト 129	「せあ……え、 せあ……へ、 せあ……」
H〃コト 130	「え、 うねり、 めわか」
	H〃コト、 両足の奥を覗く。
H〃コト 131	「ぬまのと申置しね~。 あ」
クレヨン 132	「うふふふ♪」
クレヨン 133	「あーあ、 大きくなつたやつたお♪」 《H♦少し前を覗き込む》
H〃コト 134	「ねまやつのやごじゅう。 やハ」
クレヨン 135	「あせせ~、 でもやー、 うれ、 なんとかしないと、 譲 衛に集め出来ないよね~、 アタシ達が、 なんとか、 あやしかなごよね~」
H〃コト 136	「なえとか……ダメだよ。 う~外だし」

《ク♦少し前を覗き込む》

クレシテ 137 「半布で隠れてるから大丈夫♪」

H〃コト 138 「せんと~」

クレシテ 139 「せんとせんと~」

《ク♦右/0cm ⇩ 144cm》

クレシテ 140 「まあ~。あんまり『氣持わなれ』な顔したり、Hツチな声を出したらしく……」

(144)せ疊れ)

クレシテ 141 「周りの人にバレちゃうかもね」

H〃コト 142 「お姉さんがそう云う」と、したいだけなんじや……」

《ク♦少し前を覗き込む》

クレシテ 143 「バレた? あはは♪」

H〃コト 144 「わハハ」

《H△左/0cm ⇩ 146cm》

H〃コト 145 「あなたも……『嫌なひ嫌ひて』っていって、あれせじゅうたのこ……」

(146)せ疊れ)

H〃コト 146 「嫌じやなこえですね……K(?)」

H〃コト 147 「もひ知りないです。『氣持ちよくなればいいんじやないんだとか」

《ク♦右/0cm》

クレシテ 148 「ふふ~。やつ来なくつかや~」

《ク◆右/0cm #軽下を見る》

クレシテ 149 「それじゃ、チャックを開けて……おちんちんだけ外  
に出すね? ん……んしゃ……♪」

脱がされる。

《ク◆右/0cm マイクに向く》

クレシテ 150 「あは♪ 硬あい♪ 期待してたんだー♪ んふ  
ふ♪」

H〃コト 151

「ん……先っぽがちよつと湿ってます」

クレシテ 152

「そのまま触つてて。先っぽ、なでなでって♪」

H〃コト 153

「ん、なでなで……はあ、なでなで……」

クレシテ 154

「アタシは、竿の部分を、指先でくすぐつてあげ  
る♪」

クレシテ 155

「♪こもー♪こもー……♪こもー♪こもー♪こもー……♪」

クレシテ 156 「じいへー。アタシ達の指の動き、分かる?」

H〃コト 157 「毛布の中じいの触られてるか、感触だけで想像して  
みてください♪」

男性器に二人の手が絡みつく。

クレシテ 158 「♪こもー♪こもー……♪こもー♪こもー」

H〃コト 159 「つん、つん……つん、つん」

クレシテ 160 「すり、すり……すり、すり」

H〃コト 161 「ううー……かり、かり」

クレシテ 162 「♪こー♪こー……♪こー♪こー」

---

H〃コト 163	「なで、なで……なで、なで」
クレシュ 164	「ちゅー」、ちゅー」……ちゅー」、ちゅー」
H〃コト 165	「触れるたびにおちゃんとが跳ねてます♪」
H〃コト 166	「お瓶を我慢していくとも、おちゃんとは正面に反応してくれますね♪ 可愛い♪」
クレシュ 167	「瓶は我慢だからね。 おちゃんとちゅー」ちゅー」—— されても、が一歩一歩、少しあたたかう♪」
クレシュ 168	「ちゅー」、ちゅー」……ちゅー」、ちゅー」
H〃コト 169	「なで、なで……なで、なで」
クレシュ 170	「♪」、「♪」、「♪」、「♪」
H〃コト 171	「♪」、「♪」、「♪」、「♪」
クレシュ 172	「♪」、「♪」、「♪」、「♪」
H〃コト 173	「なーど、なーど♪」
H〃コト 174	「ふふふ、とろけたお顔になつてしまふ♪」
H〃コト 175	「普段は勇敢で、かっこいい表情を見せてくれるのに……おちゃんちゃんを可愛がられると、こんなにか弱い表情になるんですね」
クレシュ 176	「癡狂な狼をバンバンなげ廻す、つよーこお兄さんなのに……おちゃんちゃんよしそれたら、甘えん坊になつたやつた♪」

クレシュ 177 「でも、いいんだよ。それで」

クレシュ 178 「今の君は、別にかっこよくないでいいの」

H#コト 179 「私たちの「」とを、歩いてくれた」豪美ですか」「

今だけは仕事を忘れて、気持ちよくなつてください」と

いふ」

一人、わざと温かい吐息を主人公に当てる。

クレシュ 180 「はあー、はあー、冷たくなつたお耳も、吐息で温めよつね」

(エグ)。より濃厚な吐息を30秒)

クレシュ 181 「はあー、はあー、(★30秒)」

H#コト 182 「はあー、はあー、(★30秒)」

しばしうき。

H#コト 183 「おちんちん、どんどん濡れでます、ちやんと氣持ちよくなつてね」

「でも、声は我慢だぞ」

クレシュ 184 「息も荒くなつてね、でも、声は我慢だぞ」

クレシュ 185 「せり、あや」……廻りすがりのお姉さんが、「」のち見つめる

H#コト 186 「あの人は……向かいに住む丘の姫さんですね。少し怪しまれてくるような気が」

クレシュ 187 「まあ、井せ上ぬなじナギねー、レーレー」「」  
「」、レーレー」「」、「」、「」、ああバーン  
「バーンやつ、でも姫君ちここ」

HIIコト 188 「お嬢さん意地悪ー。バレても知りなじょー~」

クレシユ 189 「やつらのHIIコアだつて、一緒にし「」している  
じゃぐる」

HIIコト 190 「ふふふ、だつて、『あなたに可愛い反応されたら、責  
めない』せつが失礼だよ♪」

HIIコト 191 「『あなたを狩人さんへ、でも、あなたが悪いんで  
すよ?』 甘えん坊ミルク搾り、もひゅしおやじますか  
、ぬね♪」

クレシユ 192 「くあ、おちんちんぱくーーで、『全部  
搾りてー』 うにゅうにゅうみたいへ いこよー?  
ひめのひめーーでスッキリしようねー♪」

クレシユ 193 「HIIコトと手を繋いでー、おしてまく」ドミルク搾  
りあ」

HIIコト 194 「せあ、気持ちよせやつへ 手のひらでおかんちゃん  
押しつぶされながら、しーしーへ 気持わざこです  
かー?」

クレシユ 195 「頭の中とひとになつちゃねつねー♪

コズミカルな手口キ。温かい吐息。

(田中)。少し早い吐息、30秒)

クレシユ 196 「はあ、はあ♪ (★30秒)」

HIIコト 197 「はあ、はあ♪ (★30秒)」

- 
- ケンシテ 198 「ふふ、呪黙がいぐがくへ、おひこねだすでも精  
こひきこひに感じへ、園れんじになつても大丈夫だ  
も。」一人で抜えてゆかるや」
- HIIコト 199 「じゃ、やあがい！」めで激しこと、片だくになつて  
しゃしゃね。布の巾やこやうこくこくが充満して  
こねあへ」
- ケンシテ 200 「アタシ撫の片のくちや、脚のねかえかのくちや、  
じつねやぢかやへ」のくこ黙べる、かー、せあへ  
聞ふねらねするへ」
- HIIコト 201 「かー、せあへ、く、せあへ、危険なくこぢかへ  
せあ、せあへ、ねかえかへ、かわいじみのぢか  
ねねへ」
- (30秒、『くくく』『かー、せあ』と繰り返  
くりを繰りながら古黙を引いて、△コ△)
- ケンシテ 202 「かー、せあへ、あ、せあへ(★30秒)」
- HIIコト 203 「かー、せあへ、く、せあへ(★30秒)」
- HIIコト 204 「かー」のお姫わく、おだい」いたを睨てお。ふふへ  
布の巾や、「こんなにやつたな事をしつねなんぞ、想  
像もしませんねー」
- ケンシテ 205 「おへおでアタシ撫せ、一緒に布にくねまへ、隠  
ぬ匂いつるださへ、隠のかなくいが漏れたら、我慢大  
がせたせた落ちたりしてかもださへ、大丈夫大丈  
夫へ」

(「」せ壁や)

ケルミ 206 「母ド殿」ハトメイジムセ、アタシ達だ士の秘密△」

H IIIコト 207 「せぬ、黒櫻トホカヌヘ、黒ドサ、ホモヒルマチャイ  
トヤコトヘルムシリツカ覗ルなこゝ時ニサガホア」

(「」せ壁や)

H IIIコト 208 「ドヤ、ササの母ドセ、一人のお姫セスリおかえり  
を感謝相撲ニヤエテスドクム」

ケルミ 209 「ヒナニト事のせあたのヒ、おちえむに見ルなつ  
たやハヌ一△」

ケルミ 210 「ヒハニハのが好れはひれ、坤田コトおヒトヤニ  
モ△」

ケルミ 211 「懸張ヒた想くの」懸業△、一田のヒト事終わラヒ、ア  
タシ懸がねうてねくやハサツルキハシム△」

H IIIコト 212 「わやがヒ坤田外ドアのヒ炮陰ドウカム……今度か  
ムゼ、盐體ヒなつたハ私だかの懸脚ニ持トベドレハ」

H IIIコト 213 「回シグハシド、一縛ヒ懸脚ノモハヘ、歡喜ヒサガ  
モ△」

ケルミ 214 「ハクハク、誇われちやつたねー、坤田の樂しみが  
掛ケたシヤス△」

ケルミ 215 「おハナハ、ハシツのヒドウスナ」ハヤダヒヤツンダ  
ハハハ一」

(「」せ壁や)

ケルミ 216 「おハナハ、コトセヒハヘ」

---

HIIコト 217	「今田先生も漱るといふ、手洗ひたてであります。」 (「」せ豔や)
HIIコト 218	「例へば、おれどい、心が」
ケンシテ 219	「したるの。 おはこみいかね一々」
HIIコト 220	「まあ、努力次第でせ、怖くないもなじです。その代 わら、畠田のお世話、懇意にいただかねおかへ。」
ケンシテ 221	「ふふ、ト々の懇のいと、わざと申ひしれない。 も うだ、う……」
	(「」せ豔や)
ケンシテ 222	「おめでた、トおせんやうにな。」
HIIコト 223	「ふふ、おわさん、わいと腰くなつせつだ。 お 嬢のいやさですか。 裂懸へ。」
ケンシテ 224	「おせへ、お」ご腰あごへ」
ケンシテ 225	「わいわい、おわさんが太もむに附だつてゐる。 くわいくわいへ、やひそーさんあへ」
ケンシテ 226	「腰のいやしさし、太もむはあだつたりあるへ。」
HIIコト 227	「おひこくせ、腰筋が幅つてゐる筋や、腰線がトヨヒ やがわなえどあらね」
HIIコト 228	「ふふ、赤こまくはカーテをくねるへ、せひへ 曰へし、腰ひかねて太もむはあへ。 「れが眠だかつた んであるね。」
ケンシテ 229	「じやだやね、眠ねださでここのへ。 田の畠の太も む、せんせーへくじらをあはせ一いつだい、總て 眞理がこころ曉つたへ。」

クレスト 230 「ねえねえ、やめてみたくない?」

H///コト 231 「ねむねむ?」とか、うつがせたじんじゃか? しゃうがなことあねえ」

H///コト 232 「たのめり我慢した後なの? もれへりごめいかせり れぢやうじでしめいかへ」

クレスト 233 「燃しみだねー♪」

H///コト 234 「ねー♪」

クレスト 235 「ね、Hコトのせいにれた? 太ももぴゅうぴゅう、準備出来ちゃうだ~」

H///コト 236 「こうじやよ~。私たちも、スカートをぬぐいたまが、あなたにぶつかさるわねの、走り出まわね~」

クレスト 237 「ねいじらのこいせご用事、太ももマーティンゲードル~」

H///コト 238 「両脚の母、エレベーター結構、」ハヤシしたやこね しょいね~」

激しき用口サ。

(20秒、壁紙同じの古戻アンドコ。だんだん 激しき)

クレスト 239 「せお、せお、そ、せお、せお、あ、せお、(★20秒)」

H///コト 240 「せお、せお、う、せお、せお、せお、そ、せお、(★20秒)」

ヘンテ 241	「えへ 王コレ、王コレ」
ヘンテ 242	「丑コレバモヤニマ」
	時計の音と並んで。
ヘンテ 243	「せーちゃん、おひさま、おひさま、おひさま——、おひさま、 おひさま、おひさま、おひさま、おひさま、おひさま、おひさま、 おひさま——、おひさま、おひさま、おひさま、おひさま」
ヘンテ 244	「せーちゃん、おひさま、おひさま、おひさま——、おひさま、 おひさま、おひさま、おひさま、おひさま、おひさま、おひさま、 おひさま——、おひさま、おひさま、おひさま、おひさま」
ヘンテ 245	「えわせ「わ——.....△」
ヘンテ 246	「えわせ「わ——.....△」
ヘンテ 247	「えー、太やわぢいねやぢね、井戸の母大瀬だ もせ」
ヘンテ 248	「私たかの井戸、」「そなに販葉がよくなつてくれたら どうだ、おっしゃい」「やれこむか」
	《ク◆和/10cm 小瓶、11J#6ド》
ヘンテ 249	「おーじや.....おしゃべりやね」
ヘンテ 250	「おーじの匂い屋のねづわく、おいかやくわくわく」
	《ヘンテ/10cm 小瓶、11J#6ド》
ヘンテ 251	「おーじ、匂い屋のねづわくわく」
ヘンテ 252	「うそ」

H〃コト 253 「あれより、叫へ騒うせしも。やひ夜騒ごドア」

《ク♦『騒騷ウト』 ジズヒコト、『一縷ニ体洗  
ヌ』 ド壁モド》

クココト 254 「アだねー。騒騷ウト…… | 縦ニ体洗ヌ。」

H〃コト 255 「お嬢わざ、まだ戻りぬた事ナシトナカヘ。」

《ク♦ロ/10cm》

クココト 256 「ア~~、脚立トナシヨウ。」

H〃コト 257 「アハ……▲」

(02-END)

(クココト 2398 ット 130巻) (H〃コト 1888 ット 130巻)

(ALL-END)

(クココト 2978 ット 130巻) (H〃コト 2718 ット 130巻)